

のれん情報の価値関連性及び将来業績との関連性

石井 孝和

目 次

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. はじめに | 4. 分析結果 |
| 2. 仮設定 | 5. 結論と今後の課題 |
| 3. リサーチ・デザイン | |

本稿では、財務諸表上におけるのれん情報（のれん、のれん償却費及びのれん減損損失）の有用性について、企業価値及び将来業績との関連性の観点から分析を行っている。分析の結果、のれん及びのれん償却費が企業価値と正の関連性を有することが示された一方、多額ののれんを計上している企業ほど将来業績には負の影響を与えることが示された。また、のれんの減損が予測される企業では、のれんの減価がより強く企業価値に反映されていることや、のれん減損損失はリストラクチャリングなどの効果が表れることにより将来業績に正の影響を与えることについても確認された。

1. はじめに

本稿の目的は、財務諸表上におけるのれんに関する会計情報、すなわち、のれん、のれん償却費及びのれん減損損失が企業価値及び将来業績とどのように関連性を有しているのかについて検証を行うことである。更に、それらがのれんの減損が予測される企業と予測されない企業との間でどのような差異をもたらしているのかについても併せて検証を行う。

わが国では、近年、財務諸表におけるのれんの

重要性が高まってきている。その要因の一つが、日本企業によるM&Aの増加である。図表1は、1985年以降の日本企業が関わったM&Aの件数の推移を示している。これによると、90年代半ば以降、M&Aの件数は急速に増加してきており、06年をピークにいったん減少したものの、11年に底打ちした後は、再び増加傾向にあることが分かる。更に、企業結合に関する会計基準の整備により、M&A時における会計処理の多くはパーチェス法が用いられることとなったため、のれんの発生するM&A取引が増加したことものれんの重



石井 孝和（いしい たかかず）

福山大学経済学部講師。2015年神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了、博士（経営学）。同年4月より現職。